

港北区教育研究会

1 研究主題 「社会に開かれた教育課程の創造・実践～授業力の向上と研究交流～」

2 研究主題について

港北区小学校教育研究会では、これまで市教育研究会の研究主題・副主題を受け、各教科・領域等部会（ＡＢ研）において、児童一人ひとりの問題解決力の育成を目指した主題、児童の感性をより豊かに育てよりよい生き方を培おうとする主題などを設け研究に取り組んできた。また、各学校においても、それぞれの研究主題を軸に指導法の改善や指導技術の向上、授業力や組織力の向上に向け研鑽を積んできた。昨年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、研究会や授業研究会を中止せざるを得ない状況だった。今年度はコロナ禍の中でも対策を講じながら研究を進めていくこととなる。この状況下だからこそ、「学びを止めない」を合言葉に研究を少しでも前進させるため、継続して本研究主題を設定した。

3 研究方法

【連絡・情報交換・情報共有について】

- ・メーリングリストを活用し、アンケートを送信したり意見や質問を集約したりした。
- ・書面で連絡し合うことで、事前に準備をしてもらうことができ、研究会の時短にもつながった。

【開催方法の工夫】

- ・５月から準備ができた研究部からリモートで行い、会場に集合せずに研究会を開催。
- ・講演会は体育館など広い場所で、ソーシャルディスタンスを保って実施。
- ・感染リスクを避けるための人数制限。学校１名など。

【研究会の工夫】

- ・オンライン、書面による開催など各部の判断で開催方法を決定した。
- ・感染防止を考慮しながら、講師の先生に来ていただき、研修を行った部もある。
- ・ICT研修にも取り組んだ。（iPadの編集、Meetでの作業の仕方について研修）
- ・研究会によっては、開催回数を減らして計画を立てた。

【一斉授業研の工夫】

- ・一斉授業研については区校長会として方針を示し、各部の実態に応じて開催方法を選択できるようにした。

○教室内に参観者は入らない

○会場参加人数は１～３人。公開授業数や会場の広さによって部毎に決定

○別室でのリモート参観、授業動画の視聴、紙面提案など方法は授業校が決定

- ・協議会を分散して行い、全体会はオンラインで開催するなど方法を工夫した。
- ・講師は授業撮影日に参観してもらった。

4 年間活動(事業)報告

(1) 港北区小学校教育研究会総会

6月1日(火)、3月11日(金) 高田小学校ホストによるリモート開催

(2) 各研究部活動・行事等

①区水泳交流会、区球技交流会(7月、11月)

中止

②区児童音楽会(12月～2月)

中学校ブロックを基本にして7ブロックを構成し、各校で録画、編集したDVDをブロック内で鑑賞し合う。(鑑賞したDVDは、元の学校に返却する。)

③区個別支援学級合同学習発表会(2月)

中学校ブロックを基本にして7ブロックを構成し、各校で録画、編集したDVDをブロック内で鑑賞し合う。(鑑賞したDVDは、元の学校に返却する。)

5 研究の成果と課題

「学びを止めない」という共通認識のもと、リモート会議や人数制限をしておける研修会など、感染防止対策をして研究を進めてきた。これらは今後も継続できる工夫であり、リモートやオンライン、メールの活用は、コロナ禍でなくとも有効利用ができると実感した。

しかしながら、やはり授業研究会については実際の生の子どもの姿が見たい、という意見が大半を占めた。先生と子供のやり取りや小さなつぶやき等、動画では伝わりにくいことに大切なことがあると感じている。映像による授業公開は代替案としては役に立つが、状況が許せば本来の教室での参観に戻す方がよい。次年度においては現在の状況も考慮すると、今年度と同じように人数の制限、オンラインの利用を前提とした計画を準備していく方が現実的であるとする。

また、月例研究会においては実技研修、講師による講話、行事の準備など、やはり集合で行いたい活動も多いことがわかった。その反面、役員会や指導案検討などの打ち合わせや小会議においては各校に在籍しながら参加できるリモート会議も十分有効であることもわかった。

感染の状況次第ではあるが、年度初めに年間計画を立てる時点から、オンラインの積極的な利用を進めていけるようにしたい。

昨年度、ほとんどの研究活動が停止したことにより研究部内の様々な引継ぎがうまく機能していないところがあった。行事の運営や会の進行など細部にわたり新役員が迷うことが多かったようである。特に担当する職員が毎年のように変わってしまう教科領域においては丸1年のブランクは大きかった。今年1年の活動を丁寧に引き継ぎ、今後の活動に支障のないようにしたい。

今後も教育活動を通して、豊かな体験活動や言語活動の充実をはかり、どのように主体的・対話的で深い学びを推進するのかということを意識しながら、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて研究研修に取り組んでいきたい。

【港北区 各研究部や各校からの声】

- ・コロナ禍でなくても、内容に応じてリモートでの会議を当たり前を活用していく。
- ・教職員の交通機関を利用しての移動や集合は、感染リスクを考えてしまう。
- ・初任者や経験の浅い教員のフォローを考えていきたい。
- ・行事の推進について、先の見通しが立たない。できる工夫を考えたい。
- ・動画提案など、今年度の工夫を生かし新しい研究の形を広げていく。
- ・GIGAスクール構想の取組やアイデアを区内で情報交換していく。